

日本大学工科校友会

桜 工

1973—**54**



日本大学校歌

相馬御風 作詞
山田耕筰 作曲

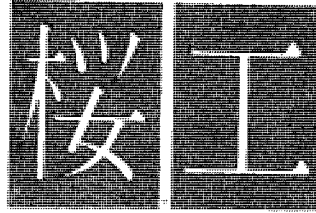


1. 日に日に新たに 文化の華の さかゆく世界
世界の曠野の上に 朝日と輝く 国の名負ひ
て 巍然と立ちたる 大学日本 正義と自
由の旗標の下に 集まる学徒の 使命は重
し いざ 讃へん 大学日本 いざ 歌は
ん われらが理想
2. 四海に先んじ 日いつる国に 富嶽とゆる
がぬ 建学の基礎 栄ある歴史の道一すじ
に 向上息まざる 大学日本 治世の一念
ほのほと燃ゆる われらが行く手の 光を
見よや いざ 讃へん 大学日本 いざ
歌はん われらが理想

若きエンジニア

堀内敬三 作詞作曲

1. 昭渙の日出づる国こそわが祖国
其の名をば担いて聳ゆわが母校
伸びゆく日本の力は茲に
地を拓き行く者若きエンジニア
2. 青春に夢あり宇宙に真理あり
現実と理想を結ぶもの我等
科学の力と不屈の意志を
武器として進まん若きエンジニア



日本大学
工科校友会誌
1973
VoL. 21
No. 54

- ◆新入生を迎えるにあたって……木村秀政… 3
- 新入学生に寄せて ……
- 立派な技術者に……(土木工学科) 栗津清蔵… 4
- 明晰な頭脳と行動力を……(交通工学科) 関 慎吾… 5
- 「初心忘れるべからず、……(建築学科) 加藤 渉… 6
- 流行を追うの愚……(機械工学科) 栗野誠一… 7
- 入学おめでとう……(精密機械工学科) 松代正三… 8
- 情熱と気力ある人生を……(電気工学科) 山本 滋… 9
- 知識の詰込みを排して……(工業化学科) 内海 諭…10
- 薬学と医学は車の両輪……(薬学科) 黒柳惣十…11
- 学問は好奇心と積極性で……(物理学科) 市川芳彦…12
- 数学雑話……(数学科) 壬生雅道…13

地を拓きゆくもの

- 一わが海外勇飛の抱負……吉江一雄…14
- 連続燃焼系より発生する
窒素酸化物の測定と制御
……C. J. Halstead (五来達抄訳) …17
- 都市の致死量 ……佐貫亦男…22
- 油と破局 ……佐貫亦男…23
- 笠原記念館について ……市川清志…24
- 札幌五輪にみたNBC社の放送技術と新鋭機器 ……26
- 故三宅康友先生を偲んで ……山本 滋…29

◇部会だより

機 械………29	電 気………32
土 木………30	精 密………32
交 通………31	放 学………33
物 理………31	英 学………34

■会誌委員/委員長中山隆(土木)/土木・下青木秀吉,
木村吉己/建築・丸田操, 広瀬力/機械・両角豊志,
黒瀬元雄/電気・高橋信夫, 館和夫/化学・伊藤和雄
/薬学・山内盛

■昭和48年3月25日印刷/36日発行

■編集兼発行人/黒沢喜久雄

■発行/日本大学工科校友会(東京都千代田区神田駿河
台1の8/電話東京293-3251内線206/振替・東京162710)

■印刷/鉄鋼新聞社神保町工場

新入生を迎えるにあたって

理工学部長

木村 秀政



きびしい入学試験の関門を突破して本学に入学し、諸君はいま人生の最良の春を過していることと思います。例年のことながら清新の気にあふれる諸君を迎えることは、私としてもまことに心楽しいことでもあります。

この機会に、本学部における教育の理念につき述べてみたいと思います。申すまでもなく諸君の入学した理工学部は諸君に理・工学の基礎およびその応用を教授することを目的としておりますが、ここで私が強調したいのは、われわれの学部は決して理学と工学を木に竹をついだような形でつなぎ合わせたものではないということでもあります。最近の科学、技術の発達はまことにめざましく、一昔前にいわれた基礎科学と応用科学という区別は、ほとんど無意味なものになってしまいました。この両者の間の壁を出来るだけなくし、時代にふさわしい教育を行いたいというのが我々の願いであります。カリキュラムもこの線にそってまかれていますが、今春さらに全面的な改訂を行い、諸君の勉学の便宜をはかることにしました。また4年制の学部につづいてさらに大学院が設けられており、希望する諸君に心ゆくまで、勉学にいそむ機会が与えられております。

専門教育とならんで、大学教育におけるもう一つの重要な眼目は、諸君を健康な身体とバランスのとれた判断力を備えた人間に育てあげることにあることはいうまでもありません。諸君がまず入学する習志野キャンパスは、汚れをしない空気と、38万m²の面積をもつ広大な天地で、諸君が大学生生活のスタートをきる場所としてきわめてふさわしいところであると思います。またリクリエーションのための施設が全国各地に設けられております。これらはいずれも諸君のためのものであり、大いに活用されるよう希望します。

諸君が本学で過ごすこれからの4年間はまことに青春とよぶにふさわしい、諸君の一生のうちでも華というべき時期であろうと思います。この4年間に諸君が後日一人前の社会人として活躍するための基礎を身につけるとともに、大いに学生生活をエンジョイし、本学を心の故郷として卒業してゆくなら、私にとってもこれ以上うれしいことはありません。